

<p>課題名 脳卒中により失語症を呈した患者の自動車運転能力調査</p>
<p>(1) 新規に導入される医療 (2) 保険診療の対象とならない医療 (3) 患者に不利となる可能性のある医療 (4) その他</p>
<p>研究責任者：田中 聡士 研究分担者：高多 真裕美</p>
<p>目的：脳卒中を発症した後、運転再開を希望する患者の中には失語症により言語処理機能が低下した患者が存在する。失語症を呈した患者は言語を伴う神経心理学的検査の成績が低下する場合は臨床場面で散見されるが、ドライビングシミュレーターなどで評価すると運転能力に著明な低下を認めない失語症を呈した患者も確認されている。このように、運転能力評価において失語症の有無や程度がどの程度運転能力と関連しているかは明らかではない。本研究では失語症の有無によって運転評価の成績にどの程度の違いが生じるかを明らかにすることを目的とする。</p> <p>対象：2023年1月～2026年3月に当院にて運転評価を受けた脳卒中により失語症を呈した患者。 目標症例数は失語症群15名、対照群150名とする。</p> <p>方法：カルテとシミュレーター記録より対象者の基本情報(年齢・性別・疾患名・運動麻痺の程度)、失語症の有無と程度(SLTAの結果や重症度等)、運転能力評価の結果を後方視的に収集する。収集するデータは既存の診療・運転評価の中で収集されたデータである。対象者への同意はオプトアウトの手法にて得る。</p> <p>解析：対象者を失語の有無で群分けし、傾向スコアマッチングにて失語症有り群と失語症なし群の基本情報のバイアスを除去する。その後、運転検査の成績の群間比較等の統計解析を行う。</p> <p>研究期間：研究承認日から2027年3月31日まで 利益相反：なし</p> <p>個人情報の取り扱い：取得した情報は、氏名等の個人の識別が可能な記述は用いず、個人とは無関係な研究用識別番号を付すことで匿名化する。本研究では研究用識別番号と診療録IDとの対応表を作成し、診療情報および研究用識別番号と診療録IDとの対応表の両方のファイルにパスワードロックをかけ、病院内のPCにファイルを保管する。本研究の情報は研究全体の終了日から5年間保管し、復元不可能な形で廃棄する。</p> <p>研究成果の発表：論文化し、国内のリハビリテーションに関する研究雑誌に投稿する。</p>